

## 令和 4（2022）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	アサリ	対象水域	太平洋中・南部 (千葉県～高知県)
担当機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、三重県水産研究所、高知県水産試験場	協力機関名	

## 1. 調査の概要

千葉、東京、静岡、愛知、三重、高知の各都県において、漁獲量等の情報収集を実施した。

静岡県と三重県では県独自の資源評価を公表しており、その調査結果を引用した。

漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省）における魚種別漁獲量統計の「あさり類」には、国内に分布するアサリ属貝類であるアサリとヒメアサリの2種が含まれるが、ヒメアサリはほとんど漁獲されないため、「あさり類」の漁獲量統計が利用可能である。

## 2. 漁業の概要

千葉県では、東京湾沿岸の三番瀬、木更津および富津地区が主な漁場である。

静岡県では、浜名湖沿岸が主な漁場で、じょれんを用いた人力採集である。

愛知県では、伊勢湾東岸および三河湾沿岸が主な漁場である。漁具および漁法は地区により異なるが、主に小型機船底びき網、腰マンガ、長柄マンガ、手掘りである。

三重県では、伊勢湾沿岸の桑名、鈴鹿、松阪、伊勢などの地区が主な漁場である。漁具および漁法は地区により異なるが、主に小型機船底びき網、じょれん、長柄である。

2021年の漁獲量は千葉県で140トン、静岡県で100トン、愛知県で2,400トン、三重県で205トンであった（図1、2）。また、東京都は2020年に46トン、高知県は0トンであった（図2）。

## 3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：南西諸島を除く日本列島全域の干潟域等、主に内湾の水深 10 m 以浅の砂・礫・泥から転石帯に生息する（伊藤 2002、浜口 2017）。外洋に面した浜では同属のヒメアサリが生息する（浜口 2017）。
- (2) 年齢・成長：受精後 2～3 週間程度の浮遊幼生期間を経て殻長 0.2～0.3 mm で着底する（伊藤 2002、浜口・手塚 2007）。寿命は 8～9 年で最大殻長は 90 mm 程度、1～3 年で漁獲可能な殻長 30 mm のサイズに成長するが、成長の地域差は大きい（浜口 2017、柿野 2021、全国沿岸漁業振興開発協会 1997）。
- (3) 成熟・産卵：産卵期は東京湾以南では概ね春から秋の間であり（松本ほか 2014）、成

- 熟は温度や餌料等の環境条件の影響を受ける（鳥羽ほか 1992）。
- (4) 被捕食関係：ろ過食者であり主要な餌は微細藻類等の懸濁態有機物であるが、浮遊幼生は1～8 μmの微細藻類等を餌料としている（Tezuka et al. 2009）。魚類・鳥類・巻貝などによる食害、寄生生物による被害が問題となっている（柿野 2021、酒井 2000、重田・薄 2012、鳥羽 2017、泉川・村山 2018、Waki et al. 2018）。

#### 4. 資源状態

静岡県の県独自の資源評価（2021年度）では、浜名湖の資源水準は「低位」、動向は「減少」と評価（静岡県 2022）。

三重県の県独自の資源評価（2019年度）では、資源水準は「低位」、動向は「減少～横ばい」と評価（羽生 2021）。

漁獲量を資源量の指標値とできるかどうかは、地域によって異なり、さらに詳細な検討が必要であるため、資源水準および動向について統一的な評価は困難である。

#### 5. 資源回復などに関するコメント

地理的分布域は広範囲であり、自然状態では幼生期以外に広範囲の移動を行わないため生物学的特性の地域差が大きい。

天然資源の減少に伴い、稚貝の移植放流と輸入種苗の利用が検討された。土木的環境改変を含め、増養殖手法の開発と適用が進められている。

資源変動には、漁場環境の変化の影響が大きいとの指摘がある（柿野 2021、蒲原ほか 2021、鳥羽 2017）。

愛知県では、天然稚貝移植や操業日、操業時間の制限等の自主的資源管理が行われている（山田 2016）。また、一部の地域において採貝漁業および小型機船底びき網漁業による漁獲努力量の検討を開始した。

#### 6. 引用文献

- 浜口昌巳 (2017) アサリ. 水産海洋ハンドブック第3版, 竹内俊郎ほか編, 生物研究社, 350-351.
- 浜口昌巳・手塚尚明 (2007) アサリ浮遊幼生の分散と着底. *Sessile Organisms*, **24**, 69-79.
- 伊藤 博 (2002) アサリとはどんな生き物か: アサリの生態, および漁業生産の推移. 日本ベントス学会誌, **57**, 134-138.
- 泉川晃一・村山史康 (2018) 浅口市寄島町地先人工干潟におけるアサリ減耗要因の推定. 岡山県農林水産総合センター水産研究所報告, **33**, 17-22.
- 柿野 純 (2021) 東京湾の環境とアサリ漁業の40年. 青娥書房
- 蒲原 聡・芝修一・鶴島大樹・鈴木輝明 (2021) 三河湾のアサリ *Ruditapes philippinarum* の成育と全窒素・全リン濃度の経年変化との関連. 水産海洋研究, **85**, 69-78.
- 松本才絵・淡路雅彦・日向野純也・長谷川夏樹・山本敏博・柴田玲奈・秦 安史・櫻井 泉・宮脇 大・平井 玲・程川和宏・羽生和弘・生嶋 登・内川純一・張 成年 (2014) 日本国内6地点におけるアサリの生殖周期. 日本水産学会誌, **80**, 548-560.

- 羽生和弘 (2021) 2019 年度三重県におけるアサリの資源評価. 三重水研報, 27, 30-39.  
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000985949.pdf>
- 酒井敬一 (2000) 万石浦アサリ漁場におけるサキグロタマツメタガイの食害について. 宮城県水産研究開発センター研究報告, 16, 109-111.
- 重田利拓・薄 浩則 (2012) 魚類によるアサリ食害—野外標本に基づく食害魚種リスト—. 水産技術, 5, 1-19.
- 静岡県 (2022) 県内主要魚種の動向 (県内版資源評価) アサリ [https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/02fishery/2-5/22\\_asari.pdf](https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/02fishery/2-5/22_asari.pdf)
- Tezuka N, E. Ichisaki, M. Kanematsu, H. Usuki, M. Hamaguchi, and K. Iseki (2009) Particle retention efficiency of asari clam *Ruditapes philippinarum* larvae. Aquatic Biology, 6, 281-287.
- 鳥羽光晴・夏目 洋・山川 紘 (1992) 東京湾産アサリの成熟と産卵に関する二, 三の知見. 水産工学, 29, 47-53.
- 鳥羽光晴 (2017) アサリ資源の減少に関する議論への再訪. 日本水産学会誌, 83, 914-941.
- Waki T., M. Takahashi, T. Eki, M. Hiasa, K. Umeda, N. Karakawa, and T. Yoshinaga (2018) Impact of *Perkinsus olseni* infection on a wild population of Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Ariake Bay, Japan. Journal of Invertebrate Pathology, 153, 134-144.
- 山田 智 (2016) 三河湾一色干潟におけるアサリの資源管理-広大な漁場におけるアサリ資源管理の成功例-. 豊かな海, 38, 57-60.
- 全国沿岸漁業振興開発協会 (1997) 沿岸漁場整備開発事業増殖場造成計画指針 ヒラメ・アサリ編 平成 8 年度版, 全国沿岸漁業振興開発協会, 東京, 316 pp.

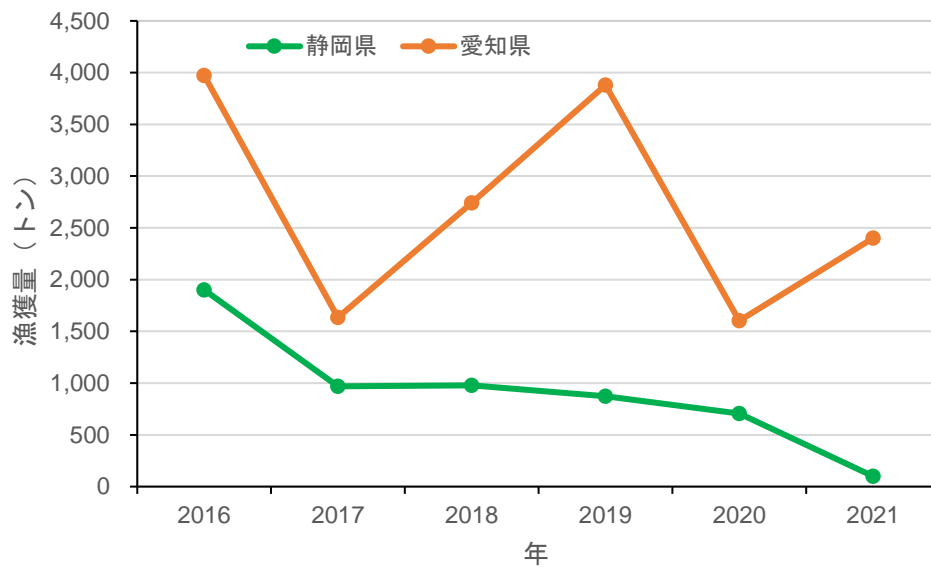


図1. 静岡県と愛知県におけるアサリ漁獲量の推移\*

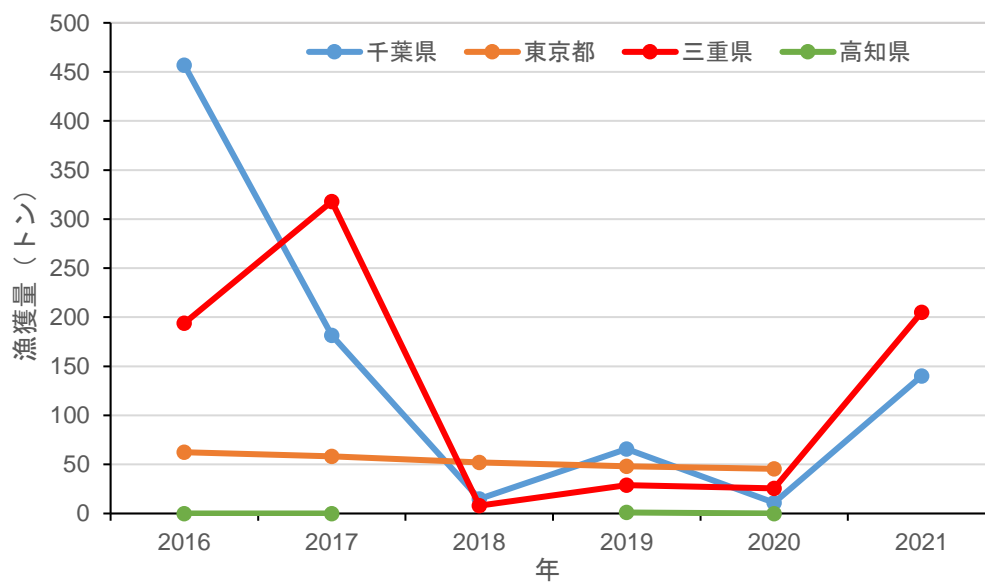


図2. 千葉県、東京都、三重県および高知県におけるアサリ漁獲量の推移\*

表 1. 各県の漁獲量（トン）の年変化\*

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
千葉県	457	181.5	15	65.7	11	140
東京都	62	58	52	48	46	
静岡県	1,901	968	978	872	707	100
愛知県	3,973	1,635	2,741	3,880	1,602	2,400
三重県	194	318	8	29	26	205
高知県	0	0		1	0	

\*魚種別漁獲統計に基づく漁獲量データ。2021年は速報値